

# 令和元年度病虫害発生予察情報 発生予報第4号

令和元年7月19日

発表：福島県病虫害防除所

普通作物

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (穂いもち)	全 域	やや遅い	平年並	①出穂期は、平年よりやや遅いと予想されている。 ②7月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場割合は、平年を下回っていた(－)。 ③BLASTAMにおいて感染好適条件が7～10日間隔で出現している(+)。 ④天候予報(7月11日発表1か月予報)によると、気温・降水量ともに平年並と予想されている(±)。	上位葉に病斑が見られる場合は、薬剤防除を実施して、穂への感染を防ぐ。
	紋 枯 病	全 域	－	やや多い	①前年の発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+)。 ②天候予報によると、気温・降水量ともに平年並と予想されている(±)。	①過剰な窒素施用や、過繁茂を避ける。 ②水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ期～穂揃期に施用する。 ③前年に発生が見られたほ場では菌密度が高まっている恐れがあるため、注意する。
	稲こうじ病	全 域	やや遅い	やや多い	①出穂期は、平年よりやや遅いと予想されている。 ②前年の発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+)。 ③天候予報によると、気温・降水量ともに平年並と予想されている(±)。	銅を含む薬剤の使用は出穂10日前までとし、葉が濡れている場合は葉害が出やすいので注意する。
	斑点米カメムシ類	全 域	やや遅い	平年並	①出穂期は、平年よりやや遅いと予想されている。 ②7月上旬の畦畔雑草のすくい取り調査では、発生地点割合及びすくい取り数は平年並だった(±)。 ③天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並と予想されている(±)。	①散布剤による本田防除は、乳熟期(出穂期の7～10日後)を基本とし、その後も発生が多い場合は、7日おきに追加防除を行う。 ②発生の多いほ場が一部で見られるので出穂期の早いほ場では特に注意する。

イネツトムシ	全 域	平年並	平年並	①粘着トラップの誘殺は、平年同様に見られていない（±）。 ②7月上旬の発生状況は平年並だった（±）。	窒素の多用や直播栽培、葉色の濃い品種で発生しやすいので注意する。	

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
大 豆	紫 斑 病	全 域	—	平年並	天候予報によると、気温・降水量ともに平年並と予想されている（±）。	開花期の 20～40 日後に薬剤防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。